

## 平成29年度 事業報告

### 財団の概要

当財団は、将来の人づくりを共通の目的として財団法人福岡県教育文化振興財団、財団法人福岡県青少年科学教育普及協会、財団法人福岡県奨学会の3財団の統合により、平成16年4月1日から財団法人福岡県教育文化奨学財団として、旧財団が行ってきた教育文化事業、科学教育事業及び奨学事業を引き継ぐとともに効率的・効果的な事業を展開した。

福岡県から公益財団法人への移行認定を受け、平成25年4月1日から公益財団法人福岡県教育文化奨学財団に名称を変更し、新たにスタートした。

### 第1 教育文化事業

#### 1 事業概要

県内の教育文化団体等が実施する県民の教育文化活動を促進するための事業に対し、経費の一部を助成する「教育文化助成事業」を実施した。

併せて、財団が自主的に県民の教育文化活動を振興するために、教育文化団体等と共催で行う事業の経費の一部又は全部を負担し、当該団体等に執行させる「教育文化振興事業」を実施した。

#### 2 事業の状況

##### (1) 教育文化助成事業

###### ア 青少年活動助成事業（決算額 3,174,000 円）

青少年体験活動助成事業

青少年の自主性、社会性、芸術性を培う多様な体験活動及びボランティアに関する学習や実践活動のための体験活動に対して助成した。

###### イ 地域文化活動助成事業（決算額 3,670,025 円）

###### (ア) 芸術文化活動助成事業（決算額 3,458,025 円）

地域の芸術文化団体・グループ等が地域の文化振興のために実施する事業及び地域における芸術文化活動の活性化に不可欠な人材の育成を図る事業に対して助成した。

###### (イ) 文化財保存活動助成事業（決算額 212,000 円）

民俗芸能等の文化財を後世に継承するための保存・普及活動及び後継者養成活動等に対して助成した。

###### ウ 教職員研究助成事業（決算額 867,000 円）

教育研究団体等が、教育課題の解決に向け自主的・先導的にを行い、かつ、有益な成果が期待される研究・実践活動に助成した。

###### エ その他の助成事業（決算額 300,000 円）

中学校の文化部活動に対し、予算の範囲内で助成した。

##### (2) 教育文化振興事業

###### ア 生涯学習振興事業（決算額 2,400,000 円）

###### (ア) 子どもの学校外教育支援事業（決算額 2,100,000 円）

自然体験やボランティア活動、読書活動など体験や活動の機会の提供や、子どもの活動を支えるボランティアの育成活動を支援した。

###### (イ) 国際交流支援事業（決算額 300,000 円）

小・中学校等へ外国人や海外経験を持つ日本人を派遣し、国際理解の促進と国際的視野を持った人材育成を図る事業を支援した。

###### イ 文化振興事業（決算額 5,070,000 円）

芸術文化事業

青少年の豊かな心を醸成するため、芸術鑑賞の機会を提供する事業や博物館等の独自の機能を生かした地域の活性化に繋がる事業を支援した。

###### ウ 顕彰事業（決算額 420,000 円）

教育実践研究や児童・生徒を対象とした競技会等で優秀な成績を収めた者を報奨した。

###### エ その他の振興事業（決算額 400,000 円）

財団設立の趣旨に沿う教育文化に関する創造的な学習、研究等の諸活動を特別に予算の範囲内で実施した。

### 第2 科学教育事業

#### 1 事業概要

当財団は、福岡県が実施する指定管理者制度に基づき、久留米市中央公園内に設置された福岡県青少年科学館の管理・運営を行っている。

福岡県青少年科学館は、平成2年4月1日に設置され、同年5月1日に開館した。施設は、展示部門、プラネタリウム部門及びライブラリー部門を備えている。展示部門においては展示品目約170点を常設展示している。プラネタリウム部門においては平成18年4月にレーザープロジェクター、平成29年2月に高精細デジタルプロジェクターを導入し、学習番組及び一般番組・全

天周映画を放映するほか、天文や科学教育普及に関する各種事業のより一層の充実を図っている。ライブラリー部門においては科学に関する書籍を揃え、科学技術に関する興味・関心・意欲の向上を図っている。

展示更新については、平成7年度に「地球」コーナー、平成8年度に「乗り物」コーナー、平成9年度に「地球にはたらく力」コーナー、平成10年度に「宇宙」コーナー、平成11年度に「マルチメディアシステム」コーナー、平成12年度に「コンピュータ」コーナーの更新を行った。平成18年度には独立行政法人物質・材料研究機構による「ナノテクノロジー解説装置」を設置した(文部科学省委託事業)。また、平成23年度には「環境と自然の力」コーナー及び「先端科学技術」コーナーを設置した。さらに、平成29年度には、内閣府所管の地方創生拠点整備交付金により、「宇宙」、「礎となる科学」、「わくわくラボ」、「自然と環境」、「キッズ「めばえ」」、「ロボット・科学技術」コーナーの更新を行った。これらの展示更新を行いながら、青少年に科学との出会いを促すとともに、本県科学教育の普及・振興に努めているところである。

平成22年5月1日には、開館20周年を迎え、記念講演会や記念イベント週間、プラネタリウム学習番組の制作、特別企画等を行った。同年7月29日には入館者数が累計500万人を、平成25年8月12日には累計600万人、平成28年11月19日には累計700万人を達成した。

## 2 施設の利用状況

### (1) 展示部門の利用状況

平成29年4月1日から平成30年3月31日までの利用者数は、一般72,249名、児童・生徒等98,504名、計170,753名となっている。

### (2) プラネタリウム部門の利用状況

平成29年4月1日から平成30年3月31日までの利用者数は、一般44,735名、児童・生徒等61,044名、計105,779名となっている。

### (3) ライブラリー部門の利用状況

平成29年4月1日から平成30年3月31日までの利用者数は、一般10,581名、児童・生徒等14,547名、計25,128名となっている。

### (4) 利用者数の合計

一般127,565名、児童・生徒等174,095名、計301,660名となっており、県民への科学教育の普及・振興に大きな成果を上げているところである。

## 3 実施した事業の概要

県民への科学教育の普及・振興、特に青少年の科学への興味と関心を高め、科学する心を培うため、次の事業を実施した。

### (1) 特別展・作品展・巡回展

#### ア 特別展

##### (ア) 「Dr. パープルからの挑戦状～恐怖の研究所を制覇せよ～」(平成29年7月8日～8月31日)

「科学トリック」をテーマに、ストーリーに沿って会場を探索しつつ、科学技術を用いた展示物で、体験しながら意欲的に科学について学ぶことで、興味・関心を喚起し、併せて県民への科学教育の普及・振興を図ることを目的として実施した。

参加者 70,510名 出展数 約56点

##### (イ) 「体験！古代エジプト調査隊～ピラミッドの謎を解け～」(平成30年3月10日～5月6日)

エジプトのピラミッドがどのような科学の力を用いて作られたのかを体験しながら、吉村作治氏の最新の調査について学ぶことで、青少年の科学に対する興味・関心を喚起し、併せて県民への科学教育の普及・振興を図ることを目的として実施した。

参加者 8,116名(平成30年3月31日現在) 出展数 約63点

#### イ 作品展

##### (ア) 「小・中学生理科研究コンクール」(平成29年10月7日～10月29日)

県内の小学生や中学生が個人又はグループで調べ、創作した理科に関する研究作品を募集し、表彰・展示することによって、子どもの科学する心を育むとともに、科学を追究・研究する子どもたちを奨励し、併せて県民への科学教育の普及・振興を図ることを目的に実施した。

参加者 13,559名 出展数 119校 671点

#### ウ 巡回展

##### (ア) 「月と地球と私たちのつながり」(平成29年5月27日～6月25日)

月と地球の関係について展示し、私たちのくらしやこれからの宇宙開発やロボット技術について紹介した。

参加者 9,544名 出展数 5点

##### (イ) 「『錯視』で生活に潤いを」(平成30年2月3日～2月18日)

錯視のデザインを用いた生活用品を展示し、ランチョンマットやペンケース・傘など生活に潤いを生み出す工夫を紹介した。

参加者 3,516名 出展数 15点

### (2) コスモシアター運営

天文に対する興味・関心を高めるとともに、天体に関する知識・理解を深めるため、学校の理科学習の一助としての「学習番組」(学習指導要領に準拠した学習プログラムを含む。)及び迫力あるCGデジタル映像を駆使した一般向けの「一般番組」「全天周映画」の放映を行った。

#### ア 学習番組

- ・ 幼児向け番組「オズのまほうつかい～星空のまほうの国へ～」、「ジャックとまめの木～星の国だいぼうけん～」  
「ケンタのほしさがしイルカのドルとだいぼうけん」・「手ぶくろを買いに」  
「くまの学校 ジャッキーのおほしさま」
- ・ 小学校低学年向け学習番組「忍たま乱太郎の宇宙大冒険 with コズミックフロント☆NEXT 太陽系のお友だちの段」
- ・ 小学校低学年向け学習番組「忍たま乱太郎の宇宙大冒険 with コズミックフロント☆NEXT 月ウサギがクレーターをかけるの段」
- ・ 小学校4年生向け学習プログラム
- ・ 小学校6年生向け学習プログラム
- ・ 中学生向け学習プログラム
- ・ 小学生向け学習番組「ワク・ドキ！探検☆大宇宙 ガリレオとめぐる太陽系の旅」
- ・ 中学生向け学習番組「ワク・ドキ！探検☆大宇宙 アインシュタインとめぐる銀河系の旅」
- ・ 環境学習番組「いきものがたり」「みずものがたり」

イ 一般番組・全天周映画

- ・ オーロラの調べ
- ・ くまもんのほしぞらおもちゃばこ
- ・ ポラリス
- ・ 妖怪ウォッチ ブラネタリウムは星と妖怪がいっぱい！
- ・ アッテンボロー博士と秘密の博物館 ～よみがえる恐竜たち～
- ・ ドラえもん 宇宙ふしぎ大探検3 ～地球のふしぎ～

(3) 科学教育普及活動

ア 科学教育普及事業

(ア) おもしろサイエンスフェア（平成29年11月18日・19日）

特設のサイエンスショー、特別イベント等を実施した。

参加者 2,918名

(イ) サイエンス教室 [13回]（平成29年5月～平成30年2月）

小・中学生に対し、観察・実験を通して身の回りの科学に触れながら、科学のおもしろさを体験させ、科学する心を培うことを目的に実施した。

参加者 191名

(ウ) ものづくり工房 [8回]（平成29年4月～平成30年2月）

小・中学生に対し、電子部品等を使った科学工作を通して工作の技術を身につけさせ、その仕組みを理解させるとともに、作品を完成させる達成感を味わわせ、科学に対する興味・関心を高めることを目的に実施した。

参加者 119名

(エ) 科学工作教室 [136回]（平成29年4月～平成30年2月）※平成30年3月は展示更新工事のため中止

当日の入館者に対し、比較的簡単でしかも興味深い工作の場を提供することで、科学への興味・関心を高めることを目的に実施した。団体利用者に対しても希望があれば臨時で実施した。

参加者 5,724名（臨時科学工作教室を含む。）

イ 天文教育普及事業

(ア) 星空教室 [9回]（平成29年4月～平成30年3月）

天文に関する知識や観察技術を分かりやすく提供することを目的に、季節の代表的な星や星座の見つけ方の学習後、プラネタリウムでの実習を行った。また、話題の天文現象や星座早見盤の使い方についての解説を行った。

参加者 274名

(イ) 市民天体観望会 [12回]（平成29年4月～平成30年3月）

天文に関する興味・関心を高めることを目的に、当館のプラネタリウム、天体観測施設・設備を利用し、実際に月や惑星などを観察する機会と場を提供した。

参加者 1,348名

(ウ) 星と音楽の夕べ [3回]（平成29年7月1日、12月16日、平成30年2月10日）

天文教育の普及を図るため、プラネタリウムによる季節の星座解説と生演奏による音楽会を実施した。

参加者 376名

(エ) ファミリープラネタリウム [6回]（平成29年7月29日・8月5日、11月11・18日、3月3・10日）

家族で楽しみながら天文や宇宙に親しむことができるよう、双方向のコミュニケーションを重視した生解説を行い、天文教育の充実に配慮した星空解説や身近な天文現象の紹介を行った。

参加者 556名

(オ) 天文ボランティア研修 [1泊2日]（平成29年10月14・15日）

天文ボランティア養成のため、天文学や天体観測機器に関する知識・技能を習熟させ、また観望会運営に関する実習等を行い、観望会を実施できる資質を身につけたボランティアを養成するための研修を実施した。

参加者 13名

(カ) 天体観測室公開（真昼の天体観察） [毎週土曜日]（平成29年4月～平成30年3月）

クーデ式屈折望遠鏡等を用い、太陽の黒点、プロミネンス、金星、明るい恒星などの観察を行った。

参加者 1,059名

(キ) 科学講演会 [1回]（平成29年12月2日）

東北大学の吉田和哉教授を講師に招き、月面に無人探査機を送り、月面を走行してその様子を画像や動画で地球に発信するというミッションの解説を通じて、月面探査ロボットの最先端について学び、科学教育の普及・振興を図った。

参加者 91名

ウ 連携事業

(ア) ネットワーク推進事業〔18回〕（平成29年5月～平成30年2月）

県内の子どもたちへの科学教育の普及・振興を図ることを目的として、県立社会教育施設や関係機関、久留米市等が実施するイベントや科学・天文事業に職員による講師の派遣支援を行った。

参加者 3,184名

(イ) 指導者支援事業〔8回〕（平成29年6月～平成30年3月）

青少年教育指導者、社会教育関係職員及び学校教育関係者等の青少年や市民に対する指導の立場にある者に対し、福岡県青少年科学館が有するサイエンスショーや科学工作、星座のさがし方などのノウハウを提供する支援を行った。

参加者 135名

(ウ) 科学館ボランティア（通年）

科学ボランティア（科学工作教室、ものづくり工房で活動）及び天文ボランティア（市民天体観望会で活動）に活動の場を提供した。

平成29年度活動者数（登録者数）

・科学ボランティア 24名

・天文ボランティア 54名

(エ) 研修生受入

○中学生の「職場体験」（平成29年6月～10月）：9名

○高校生の「インターンシップ」（平成29年8月）：4名

○大学生の「インターンシップ」（平成29年8月）：3名

○学芸員資格取得のための「博物館実習」（平成29年7月）：3名

○教員の社会貢献活動等（平成29年8月）：11名

(4) 調査研究・広報活動

利用者の便宜を図るために、科学に関する資料の調査・収集、レファレンスサービス等を行うとともに、科学館ニュース等の定期刊行物及びホームページによる科学情報の提供を行った。

また、教育事務所、市町村教育委員会、学校との連携を一層強化して、県内及び隣県の団体利用の促進を図るとともに、新聞やテレビ等マスメディアを活用して積極的な広報周知活動に努めた。

### 第3 奨学事業

1 事業概要

当財団においては、奨学事業として奨学金等貸与事業及び福岡県学生会館の管理運営を行っている。

平成29年度において、高等学校入学支度金は、4,512人に対し341,550,000円（うち平成30年度入学支度金は、2,233人に対し167,500,000円）を、また高等学校奨学金は、13,461人に対し3,276,235,000円を貸与し、貸与総額は、3,617,785,000円であった。

一方、奨学金の返還については、返還義務額5,846,594,664円に対し3,673,005,563円の返還があり、回収率（返還期到来分）は62.82%であった。なお、繰上返還分を含む返還収入額は、3,974,042,594円であった。

2 事業の状況

(1) 奨学生の募集

高等学校奨学金の予約募集については、中学校在学中に市町村教育委員会を通じて募集を行い、同奨学金の在学募集は4月入学後から5月10日まで、緊急募集は4月入学後、随時募集を行った。

また、奨学生の選考については、奨学生選考委員会を開き、奨学生の採用を決定した。（緊急募集を除く。）

なお、平成29年度の出願率及び採用状況は次のとおりである。

区分	定員 (人)	出願者数(人)				出願率 (倍)	採用決定者数(人)			
		予約 募集	在学 募集	緊急 募集	合計		予約 募集	在学 募集	緊急 募集	合計
支度金	2,458	4,935	—	—	4,935	2.01	3,166	—	—	3,166
奨学金	4,688	5,562	1,195	85	6,842	1.46 (1.19)	4,754	1,006	81	5,841
合計	7,146	10,497	1,195	85	11,777	1.65 (1.47)	7,920	1,006	81	9,007

※ 高等学校奨学金出願率の上段 : 予約・在学・緊急募集を合わせた出願率  
下段 ( ) 書き : 予約募集のみの出願率

平成30年度入学支度金の出願率及び採用状況は次のとおりである。

区分	定員(人)	出願者数(人)	出願率(倍)	採用決定者数(人)
支度金	2,649	4,581	1.73	2,890

(2) 奨学金の貸与

奨学金は、本人名義の普通預金口座に3ヶ月分ずつ年4回に分けて振込を行った。平成29年度貸与額及び貸与実績は、次のとおりである。

区分	国・公立、私立、学年別		貸与額	
高等学校	支度金	国・公立	50,000円	
		私立	100,000円	
	奨学金	国・公立	1・2・3・4・5年生	(自宅)月額 18,000円
				15,000円
				10,000円
		私立	1・2・3年生	(自宅外) " 23,000円
				20,000円
				15,000円
	私立	4・5年生	(自宅) " 25,000円	
			15,000円	
			10,000円	
	私立	4・5年生	(自宅外) " 30,000円	
20,000円				
15,000円				
私立	4・5年生	(自宅) " 30,000円		
		20,000円		
		10,000円		
私立	4・5年生	(自宅外) " 35,000円		
		25,000円		
		15,000円		

平成29年度 貸与金

区分	学年	国・公立 私立別	当初予算額		貸与実人員	貸与金額	
			人員	金額			
高等学校	支度金	国・公立	2,589 (1,343)	129,450 (67,150)	2,193 (1,116)	109,650 (55,800)	
		私立	2,518 (1,306)	251,800 (130,600)	2,319 (1,117)	231,900 (111,700)	
		計	5,107	381,250	4,512	341,550	
		奨学金	1,737	336,028	25	6,408	
	奨学金	1	国・公立 自宅 自宅外	4,688	1,161,708	2,254	627,830
			私立 自宅 自宅外			165	55,920
		2	国・公立 自宅 自宅外	4,908	1,212,300	1,984	383,913
			私立 自宅 自宅外			26	6,856
		3	国・公立 自宅 自宅外	4,609	1,120,608	2,388	670,120
			私立 自宅 自宅外			143	49,470
		4	国・公立 自宅 自宅外	250	65,124	2,123	411,532
			私立 自宅 自宅外			34	8,976
5	国・公立 自宅 自宅外	101	26,652	2,281	635,910		
	私立 自宅 自宅外			147	51,060		
計	国・公立	14,556	3,586,392	84	16,137		
	私立			7	1,800		
合計	入学支度金	5,107 (2,649)	381,250 (197,750)	4,512 (2,233)	341,550 (167,500)		
	奨学金	14,556	3,586,392	13,461	3,276,235		

貸与総額 3,617,785 千円

※入学支度金の( )内における数字は、平成30年度入学支度金貸与日の前倒しに係るもの。

(3) 奨学金の返還

返還滞納者については、毎月督促状を発送するとともに、滞納債権督促員による訪問督促を実施した。また、9月にわたり返還がない者2,332名に対して支払督促申立予告を行い、38名に対して強制執行手続開始を通告した。

さらに、法的措置後の長期滞納者(888件、432,568,918円)に対して、平成29年11月より債権回収会社による回収業務の委託を行い、136件、3,414,400円を回収した。

平成29年度の回収状況は、次のとおりである。

区分	返 還 期 日 到 来 分										返 還 収 入 額					
	返還該当額 ①		猶予等額 ②		返還義務額 ③		返還収入額 ④		未返還額 ⑤ (③-④)		返還期日到来分④ (再掲分)		繰上返還分⑥		計 ④+⑥	
	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額
高等学校 (支度金)	86,783 (29,342)	6,861,119,538 (351,732,246)	11,936 (4,696)	1,179,621,061 (66,981,834)	81,186 (27,549)	5,681,498,477 (284,750,412)	72,915 (23,669)	3,535,746,429 (151,170,125)	8,271 (3,880)	2,145,752,048 (133,580,287)	72,915 (23,669)	3,535,746,429 (151,170,125)	1,597 (753)	292,659,831 (14,744,972)	74,512 (24,422)	3,828,406,260 (165,915,097)
大 学	810	285,755,706	174	120,659,519	802	165,096,187	758	137,259,134	44	27,837,053	758	137,259,134	32	8,377,200	790	145,636,334
計	87,593	7,146,875,244	12,110	1,300,280,580	81,988	5,846,594,664	73,673	3,673,005,563	8,315	2,173,589,101	73,673	3,673,005,563	1,629	301,037,031	75,302	3,974,042,594

返還回収率 (④/③) 62.82 %

(4) 卒業奨学生に対する返還書類送付

平成30年3月卒業生に対し、平成29年11月10日に返還手続の関係書類を送った。

卒業生は次のとおりである。

区分	卒業生数
高等学校	4,730人

(5) 福岡県学生会館の運営

ア 福岡県学生会館

所在地 神奈川県横浜市青葉区荏田西一丁目14番の2  
 建物 鉄筋コンクリート造5階建  
 1室1人部屋  
 収容人員 150人  
 英彦寮(男子居住区) 100人  
 筑紫寮(女子居住区) 50人

イ 福岡県学生会館入館選考状況

募集期間が平成29年11月10日から平成29年11月24日までの早期募集と、平成30年1月9日から平成30年2月2日までの通常募集を行い、学生会館運営委員会で選考し、次のとおり入館者を決定した。

区分	募集定員	申込者数	入館決定者数
福岡県学生会館	英彦寮	85人 (7)	69人 (7)
	筑紫寮	55人 (9)	23人 (7)

※ 申込者数・入館決定者数の上段 : 早期・通常募集をあわせた人数  
 下段 ( ) 書き : 早期募集のみ的人数